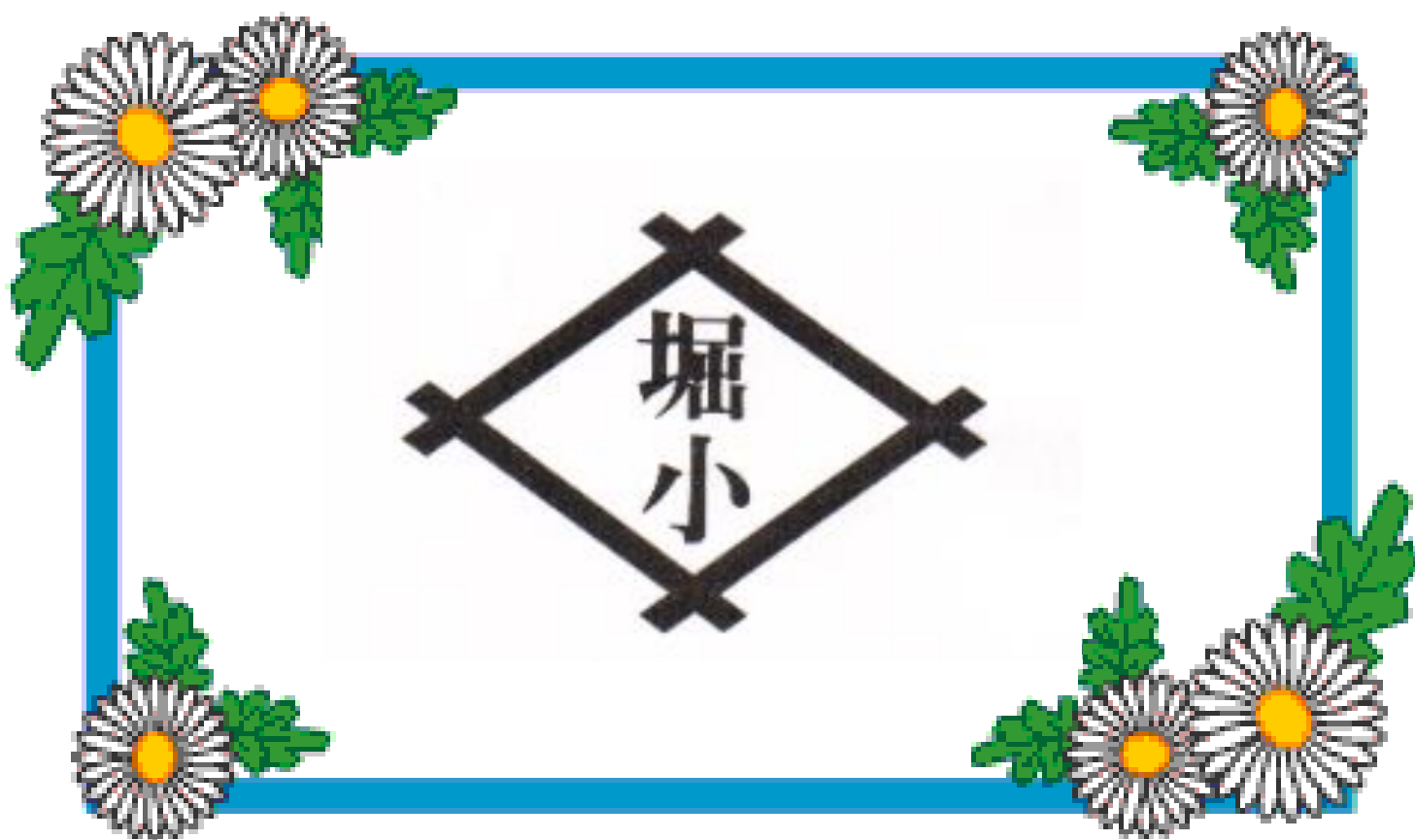


令和元年度 狭山市立堀兼小学校 校内研修

学校課題研究紀要

条件作文解決能力を高め、
豊かに表現する児童の育成



埼玉県狭山市立堀兼小学校

〒350-1312 埼玉県狭山市堀兼1234

TEL 04-2959-3343

FAX 04-2959-3398

研究の概要

「条件作文解決能力を高め、豊かに表現する児童の育成」

本校は、狭山市の東部に位置し、四方を畑や林に囲まれた、緑あふれる自然豊かな学校である。明治7年に開校し、現在は13学級児童数266名と、市内では比較的児童数の少ない小規模の学校である。

学校教育目標に「まなぶ きたえる おもいやる」を掲げ、「ふるさと ほりがね」をスローガンとして、地域とともに歩み、ふれあいを大切にしたい心豊かな学校を全職員で目指している。保護者や地域も、児童の成長していく姿を温かく見守り、それに応えるかのように児童もすくすくと育っている。

平成31年度の全国学力学習状況調査の結果を見ると、国語では全国及び埼玉県平均に比べ、特に「書くこと（記述式解答）」に課題が見られ、約4ポイント程度下回っていた。また、算数ではほぼすべての領域で平均を下回る結果となった。特に、全国及び埼玉県平均に比べ「記述式解答」に課題が見られ、約10ポイント程度下回っていた。同様に、平成31年度の埼玉県学力学習状況調査の結果を見ると、第5・6学年では、国語・算数ともに埼玉県平均を下回り、一方第4学年では、国語・算数ともに県平均を上回った。中でも着目すべき課題点は、「書く能力」「記述式解答」が全学年とも大きく県平均を下回っている点である。このように、本校児童の課題として記述式の問題の回答率が低い実態が浮き彫りとなっている。

そこで今年度は、「書く力」に焦点を当て、様々な学習場面でその能力を高めるための指導を行うこととした。特に課題研究として「国語科」を取り上げ、「書く力」を向上させるための授業展開について、上記のような研究主題を設定し研究を進めることとした。

研究推進の方針として、授業実践と研究協議を軸に、事前・事後の意識調査による変容と諸学力調査の結果分析から、「書く力」を向上させる本校の国語科学習モデルを確立することを目指した。体制は、教務部を調査統計部、学級担任を授業研究部とし、低・中・高学年ブロックの3ブロックに分かれ組織した。授業研究会は外部指導者を招聘し計3回実施した。

指導者・授業者

指導者

狭山市立教育センター 指導主事

授業者：

〈低学年ブロック〉

第1学年2組 担任教諭

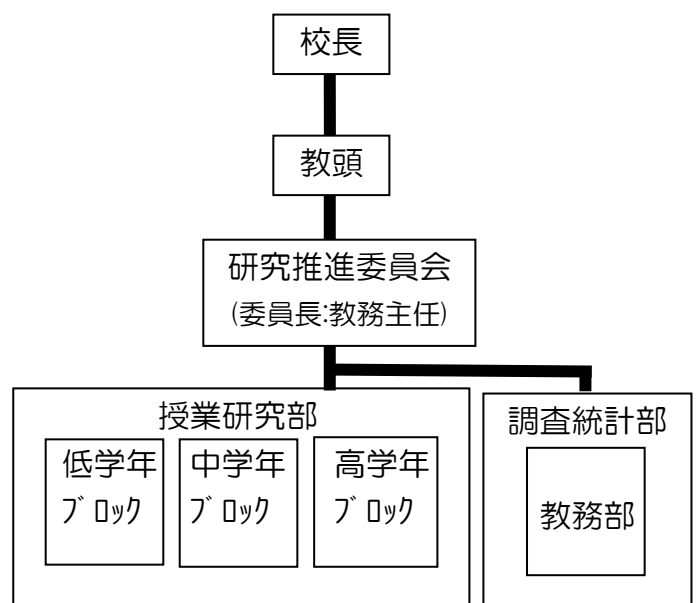
〈中学年ブロック〉

第4学年2組 担任教諭

〈高学年ブロック〉

第5学年2組 担任教諭

組織図



低学年ブロック研究

I 授業実践

- 1 単元名・教材名 「くらべてよもう じどう車くらべ」(光村図書)
- 2 実施日時 令和元年12月6日(金) 第5校時 1年2組教室(在籍児童数20名)
- 3 研究主題との関わり

仮説 主体的対話的で深い学びを通して、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力(条件作文解決力)を高めれば豊かに表現できる児童が育つであろう。

- ・単元の見通しをもつことで、学習意欲をもった主体的な学びにつなげられるだろう。
- ・文章の構成を理解しながら読み進めることで、構成の工夫による効果を感じることができ、文のまとまりを意識した文章を書く力を育てることができるだろう。

手立て①：主体的な学習に向けての指導の工夫

- ・毎時間、めあてや課題の提示と振り返りの時間を大切にする。
- ・完成している自動車図鑑を見せ、単元のゴールのイメージを持たせる。
- ・書く活動に取り組みやすくするため、ワークシートの活用をする。
- ・「しごと」と「つくり」が明確になるよう色分けをした提示をする。

手立て②：対話的な学習に向けての指導の工夫

- ・友だちの意見や考えを交流する場を意図的・計画的に設定し、自分の中で新たな発見をさせる。
- ・基本的な話型を作成し、繰り返し経験することで話し合うことに慣れさせる。
- ・ペア学習や小グループでの意見交流や発表の場では、共感する気持ちや疑問を持ちながら聞くことができ、さらに質問や感想を伝えるところまで指導していく。

手立て③：深い学びに向けての指導の工夫

- ・単元にあった図書資料を準備する。
- ・並行読書を進め、知識を増やし興味を広げることで自分の考えをより深める。
- ・読書をした後、自分の興味の持った乗り物について、理由と共に友だちに紹介する。

手立て④：まとめて書く学習に向けての指導の工夫

- ・文章にサイドラインを引き、大切な言葉(そのために)(~のように)を抽出できるようにする。
- ・基本的な文型を作成し、自分の考えを表現できるようにする。
- ・文と文のつながりを意識できるように、大切な言葉(そのために)(~のように)を提示し、つながりのある文章を書くことができるようにする。
- ・構成を意識して書けた児童の文章を紹介する。

4 単元の目標

- (1)知識を得るために、事柄の順序を考えながら内容の大体を読み、本や文章から大事な文を書き抜くことができる。(読むこと)
- (2)事柄の順序に沿って、簡単な構成を考え、文と文の続き方に注意しながら、つながりのある文章

を書くことができる。(書くこと)

(3)長音・拗音・促音などの表記や句読点を正しく使って書くことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 本時の学習指導(本時6 / 12時)

(1)目標

はしご車の「しごと」と「つくり」を教科書の文章や挿絵をもとに、話し合いながらまとめて、はしご車の図鑑を作ることができる。

(2)評価規準

- ・はしご車の「しごと」と「つくり」について文章や挿絵をもとに書くことができる。(ワークシート)
- ・話し合いながら、まとめることができる。(ワークシート・話し合いの様子)

(3)展開イメージ(板書)

じどう車くらげ	めあて	はしご車の「しごと」や「つくり」をしらべてずかんをつくろう。
しごと	はしご車は、火じのとき、たかいところにいる人をたすけるしごとをしています。	はしご車は、火じのとき、たかいところの火をけすしごとをしています。
そのために	つくり	ビルの上までとどく、ながいはしごがついています。
さらに		車たいがかたむかないように、じょうぶなあしがついています。
まとめ		はしごのさきに人がのるはこがついています。
ふりかえり		

II 研究協議

1 学年の取組

- ・サイドラインを引いて、キーワードを落とさず扱っていった。
- ・「そのために」でつなげる学習をしてきた。
- ・毎時間、同じ流れで慣れさせてきた。ワークシートも学年で共有してきた。
- ・本時は仕事を見つけた後、絵からつくりを見つける活動であった。「働く」を「仕事」の代わりに見つけさせた。

2 授業者の反省

- ・クレーン車までは、写せばどうにかなったが、本時はチャレンジのつもりで、つくりが書いていない

状況であった。意外と児童は書けていた。

- ・「働く」をキーワードに着目させていったが、少し長くなってしまったのが反省点である。
- ・「はしごを登っていく」については、想定外の児童の思考であった。教材研究不足を反省している。
- ・授業をどんどん進めてしまった。考える時間がもう少しあるとよかった。
- ・まとめは、児童の言葉を書いた。

3 研究協議

- ・大事な言葉に関しては、基本的に児童の言動から拾いたい。
- ・流れが掲示で分かる、目的が分かる工夫がよかったので、仕事を見つけると、「クレーン車こうだったよね」とか振り返ってもよかったのでは…。⇒窓への注目がなくなる…。
- ・1年生とはいえ、大変よく書けていた。
- ・教室に模型を置いておいた。窓などにも気を付けたい。
- ・ワークシートについて：拡大はよかった。例示は後でもよかったかも。
 - ：吹き出しを学び合う時間（ペア学習）が、授業後半に生きてきた。
 - ：学びへの支援が必要な児童のために、1マス空けた状態のものを配ってもよかったかもしれない。
- ・工夫したところは、学びをパターン化したところ。
- ・UDの視点も取り入れられていた。（山登りの絵が学習の見通しをつけてくれていた）⇒動機付けに
- ・「書く」とことと「考える」ことの往還を繰り返していた。聴く態度、読む集中力も素晴らしかった。
- ・まとめについて：「はしご車」だから、そのことに関するものだけでよいかもしれない。
- ・研究主題との関連で：手立て1⇒山登りの絵や図鑑づくりなどが動機付けにつながっていた。
 - 手立て2⇒ペアで学び合う姿勢、うるさすぎずさりげない関係がよかった。
 - 手立て3⇒教材準備がよくできていた。個に応じた学習、スモールステップが学習過程によく組み込まれている。

4 指導講評

- ・基礎的な内容の定着を図る上で、低学年の授業はとても重要である。
- ・主体的な学びの「ゴール」を明確化していた。自分の図鑑の振り返りなどがとてもよい。
- ・対話的な学びに関して、伝え合う時間がもう少しあってもよかった。低学年は、同じ所や似ている所に着目させていながら。
- ・深い学びに関して、45分の内20分書いていた。教師側の発問の精選もなされている。
- ・今後の研修に関して：読む力＝考える力＝書く力である。
 - ：推敲を入れられるとさらによい。
 - ：日記指導は、書く力の向上につながる。
 - ：自宅で読書など、家庭との連携を。
 - ：視写なども重要である。
 - ：日常会話の中で自分の思いを伝える。



中学年ブロック研究

I 授業実践

- 1 単元名 生き物の発見や驚きを「生き物ひみつリーフレット」で紹介しよう
教材名 「ウナギのなぞを追って」(光村図書)
- 2 実施日時 令和2年1月27日(月)第5校時 4年2組教室(在籍児童数 26名)
- 3 研究主題との関わり

仮説 主体的対話的で深い学びを通して、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力(条件作文解決力)を高めれば豊かに表現できる児童が育つであろう。

- ・単元の見通しをもつことで、学習意欲をもった主体的な学びに繋がられるだろう。
- ・文章の構成を理解しながら読み進めることで、構成の工夫による効果を感じることができ、文のまとまりを意識した文章を書く力を育てることができるだろう。

手立て①：主体的な学習に向けての指導の工夫

- ・毎時間のめあてと振り返りの時間の充実。
- ・単元の最終目標の提示。
- ・ワークシートの活用。

手立て②：対話的な学習に向けての指導の工夫

- ・意図的、計画的な交流の場の提供。
- ・ペア学習やグループ活動における意見交換

手立て③：深い学びに向けての指導の工夫

- ・リーフレットの作成

手立て④：まとめて書く学習に向けての指導の工夫

- ・サイドラインによる事実と考えの仕分け。
- ・キーワードの確認。

4 単元目標

- (1) 調査によって明らかになる事実と、考察とで構成された調査報告文に興味をもち、進んで読もうとしている。
(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 目的や必要に応じて、文章の要点や細かい点に注意しながら読み、文章などを引用したり要約したりすることができる。
(読むこと)(1)ウ
- (3) 文章を読んで考えたことを発表し合い、一人一人の感じ方について違いがあることに気付くことができる。
(読むこと)(1)カ
- (4) 目的や必要に応じて伝えたい内容を明確にすることができる。
(書くこと)(1)ア

5 本時の学習指導（7／9時）

(1) 目標

「中2後半」の要点をおさえ、紹介文を書くことができる。

(2) 評価規準

国語への関心・意欲・態度 (ア)	書く能力 (ウ)	読む能力 (エ)	言語についての知識・理解・技能 (オ)
②事実と考察の文末に気を付けながら読もうとしている。	①紹介する理由を説明するために、ふさわしいところを引用したり要約したりしている。	②本論の内容を、事実に基づいて発見までの長い年月を詳しく読み取っている。 (ウナギのなぞ・ひみつ図鑑作成)	①適切な言葉(文末表現)を使って表そうとしている。

(3) 展開イメージ (板書)

<p style="text-align: center;">交流のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の紹介文と比べながら聞く。 	<p style="text-align: center;">キーワード</p> <ul style="list-style-type: none"> ・フロント ・塩分のこさがことなる海水のさかい目 ・ウナギのたまご発見 	<p style="font-size: 2em; font-weight: bold;">本文コピー</p>	<p style="text-align: center;">一月二十七日月曜日</p> <p style="text-align: center;">ウナギのなぞを追って</p>
--	---	---	--

めあて

塚本さんたちは何に着目し、たまごを産む場所にたどりつけたのかを中心に、⑪⑫の部分を要約しよう。

II 研究協議

1 学年の取組

- ・新聞等を活用し、まとめる力を身に付けてきた。
- ・キーワードを有効に用いて、自分の力でまとめさせてきた。
- ・児童同士の学び合いを取り入れてきた。

2 授業者の反省

- ・自分の文を見直す時間を設けた。
- ・グループ編成について…項目の数が違っていたり、グループによって学力に差があったりと、よりよいグループ編成になっていたかどうか、課題である。

3 研究協議 ～グループ協議は略～

- ・グループ編成について：学力に支援が必要なところは、重点的にフォローする。
内容でまとめずに、あえて違うテーマの児童をグループにするのもよいのではないか。
学び合いには、学力的に異質グループで4人がよいと思う。ただし、テーマについては、課題を共有していないと深まらない。総合的な学習の時間とは異なる特性なので、グループ毎のテーマ設定でよいのでは。
- ・線の引き方に色を分けているのはとても分かりやすかった。
- ・読む、まとめる、書く力が必要である。
- ・長文だったので、もっと要約した方がよいのでは…。
- ・「書く力」をステップアップして「正しく書く力」にするために、読み直し（推敲）を取り入れていたのはとてもよかった。
- ・「書く力」は「読む力」も必要であるし、そのためには「考える」時間の確保が大切であることを改めて感じた。
- ・研究主題との関連で：主体的⇒「分かる」から「やれる」へ、特にオリジナルのリーフレットは、自分が何をしたいかの動機付けにつながっていた。
対話的⇒互いに学び合う姿勢が、さりげなくてよかった。
深い学び⇒他者との交流によって、新たな学びにつながっていた。
- ・全体へのシェアリング（よかったところ、新しく知ったことなど）があるとよりよかった。

4 指導講評

- ・目的が明確でとてもよかった。
- ・キーワードを見つけるのが早かった。
- ・グループに分かれたり、聞くときのポイントを提示したりしていたのもよかった。
- ・グループ同士での話し合いが積極的になされていた。
- ・主体的な学びの視点から
学習の目的が明確：リーフレットを作り、友達に紹介するというゴール
学習の内容が明確：めあてと振り返りを毎時間、文章構成（考えと事実）、要約の仕方、大切な語の見つけ方の学習
学習の方法が明確：自分が興味を持ったことを選択して学習を進める。
1時間の流れ（個⇒同じテーマグループ⇒個で修正⇒清書）
- ・対話的学びの視点から
同じテーマグループで自分の書いた文章を伝え合う活動（共有）
※座席の工夫 話し合うときのルール 聞くときのポイント指導を
友達との対話⇒自己内対話⇒自分の書いた文書を修正⇒清書（推敲）
筆者との対話（黙読の時間、紹介文を書く時間）
- ・深い学びの視点から
児童が考える場面 > 教師が教える場面

高学年ブロック研究

I 授業実践

1 単元名 表現を工夫して物語を書こう

教材名 「一まいの写真から」(光村図書)

2 実施日時 令和2年2月17日(月)第5校時 5年2組教室(在籍児童数 22名)

3 研究主題との関わり

仮説 主体的対話的で深い学びを通して、目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く力(条件作文解決力)を高めれば豊かに表現できる児童が育つであろう。

- ・単元の見通しをもつことで、学習意欲をもった主体的な学びにつながられるだろう。
- ・文章の構成を理解しながら読み進めることで、構成の工夫による効果を感じることができ、文のまとまりを意識した文章を書く力を育てることができるだろう。

手立て①：主体的な学習に向けての指導の工夫

- ・毎時間、めあてや課題の提示と振り返りの時間を大切にする。
- ・書く活動に取り組みやすくするため、ワークシートの活用をする。
- ・物語の中で様々な表現方法を使いこなせるように、表現の工夫チェックシートを作成し活用する。
- ・自分が読んだ物語で言葉や表現の工夫があったら書きためておくようにする。

手立て②：対話的な学習に向けての指導の工夫

- ・友だちの意見や考えを交流する場を意図的・計画的に設定し、自分の中で新たな発見をさせる。
- ・ペア学習や小グループでの意見交流や発表の場では、共感する気持ちや疑問を持ちながら聞くことができ、さらに質問や感想を伝えるところまで指導していく。

手立て③：深い学びに向けての指導の工夫

- ・単元にあった図書資料を準備する。
- ・並行読書を進め、知識を増やし興味を広げることで自分の考えをより深める。
- ・読書をした後、物語の構成使われている言葉や表現について友達と交流する。

手立て④：まとめて書く学習に向けての指導の工夫

- ・基本的な文型を作成し、自分の考えを表現できるようにする。
- ・文と文のつながりを意識できるように、文の構成例を提示し、つながりのある文章を書くことができるようにする。

4 単元の目標

- (1)写真から想像を広げて、物語に書くことを考え、文章全体の構成や表現を工夫して物語を書くことができる。(書くこと)
- (2)書いたものを発表し合い、表現のしかたに着目して助言し合うことができる。(書くこと)
- (3)物語にはいろいろな構成があることを理解することができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

5 本時の学習指導（2／6時）

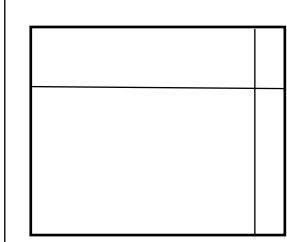
（1）目標

物語のおおまかな構成を考え、友達と交流しながらまとめることができる。

（2）評価規準

- ・物語のおおまかな構成を考え、表にまとめることができる。（ワークシート）
- ・友達と交流しながら、まとめることができる。（ワークシート・話し合いの様子）

（3）展開イメージ（板書）

<p>交流の視点</p> <p>① 構成と内容が合っているか。</p> <p>② 足りない情報や考えはないか。</p> <p>③ さらによい物語にするための展開はないか。</p> <p>交流の目的</p> <p>自分や友達の文章の良さや課題を見つける</p>	<p>例 一枚の写真から</p> 	<p>物語の構成の例</p> <p>現在 過去（事件のきっかけ） 過去（事件） 現在 始め 事件 人間関係の変化 結末 始め 事件のきっかけ 事件の解決 結末</p>	<p>課題</p> <p>物語の構成を考えよう。</p> <p>一まいの写真から</p>
---	--	--	---

II 研究協議

1 学年の取組

- ・苦手意識を撤廃＝ワークシートの活用と工夫を通して。
- ・文章書く、整理 表現チェックシートの活用。
- ・意見交流＝ペア学習 助言の仕方 読書コーナーの設置 文型選択型（質問）
- ・写真の偏り⇒クラスによって差があった。人気はカブトムシ。比較的多様であった。

2 授業者の反省

- ・単元の制限：作文が苦手な児童が多い。特に長文。
- ・物語＝表現力。丁寧さを心掛けた。構成の部分を（2時間目）もっと丁寧に指導すれば良かった。
- ・内容が定まらず書ききれない⇒書ききれぬ工夫。表現のチェックシートの使い方を指導した。
- ・交流に関して、席順を調整した。二人組みでのペア学習。

3 研究協議（各グループの発表から）

- A：・ワークシート写真付きのワークシートがよかった。コメントを多く書けたらよかった。
 ・2人組み→3～4人ができたらよかった。班の中で写真を同じにした方がよかったのでは。
- B：・表現のチェックシートがよかった。言葉の選択肢が広がる。時系列を整えた方がよい。
 ・ペア学習→慣れてない所が一部あった。3～4人組みがよいと思う。
- C：・おおまかな構成に対して、表現チェックシートは細か過ぎてしまう。
 ・写真を基準に物語を考えていく方が構成しやすい。
 ・ペア学習→写真が別だとアドバイスがしにくい。
- D：・どちらもよかった。前段階でもう少し細かく指導しておくとうよかったのでは。
 ・書いて、話して繰り返し行くとよかった。
 ・ペア学習時の写真を同じにするかどうか結論は出なかった。

4 指導講評

- ・言葉の特徴や使い方に関する事項
- ・文章全体の構成や展開
- ・物語＝起承転結
- ・互いの物語を読み、お互いのよい点を探す。
- ・学年ごとの繋がりを大切にすべき。積み重ねが大切。
- ・主体的＝1冊の本にまとめる。自由度が高い単元。
- ・表現の工夫。辞書を使用しているのは素晴らしい。
- ・児童の実態に合わせて、構成を考える時間を増やしているのがよい。
- ・児童1人1人を見回り、話し合いが出来るようにした土俵上げがよかった。
- ・ペア学習を第1時から積み重ねてきた為、お互いの物語構成が理解しやすい環境だった。
- ・良い表情で話し合う児童が多かった。
- ・45分間をどう組み立てていくか、途中で止めてヒントを得てから書き出すのも1つの手段。
- ・書き出しは、じっくり待つのも1つの指導法。褒めてあげるのは、やはり有効な手段。

★表現の工夫チェックシート★	
・物語の中でたくさん表現方法を使いこなそう！	
表現	例・ポイント
初めのインパクト	雷がしんしんとふっています
比喩(何かにたとえる)	星のおしゃべり ～まるで○○のよう
擬人法(人にたとえる)	大さわぎ
擬声語(聞こえた声を文字で)	りりりりり
擬音語(聞こえた音を文字で)	ザーザー
例置法(文章の入れかえ)	空が晴れた→晴れた空が
対比(反対の言葉・似た言葉)	赤・白
反復(くり返し)	いつまでもいつまでも
体言止め(名詞で終わる)	～のように踊る人形。
あえてひらがな	
あえてカタカナ	
言葉の宝箱より (240ページ)	
一文の長さ	長すぎず、短すぎず。
主語・述語	きちんと対応している
言葉の難しさ	読み手に伝わるか

調査統計部

I 学力・学習状況調査

- 1 全国学力・学習状況調査（実施日：平成31年4月18日 対象：第6学年）
- 2 埼玉県学力・学習状況調査（実施日：平成31年4月11日 対象：第4・5・6学年）

全国学力・学習状況調査「国語」の結果から、全国及び県平均に比べ、特に「書くこと（記述式解答）」に課題が見られ、約4ポイント程度下回っていた。

また、埼玉県学力・学習状況調査「国語」の結果から、第5・6学年では、国語・算数ともに県平均を下回り、一方第4学年では、国語・算数ともに県平均を上回った。中でも着目すべき課題点は、「書く能力」「記述式解答」が全学年とも大きく県平均を下回っている点である。

本年度の取組の成果と課題は、令和2年度実施の調査結果をもとに考察していく。

II 意識調査

全学年の児童を対象に、1「国語は好きですか」、2「作文は好きですか」の調査を2回実施した。1回目は事前調査として令和元年9月に、2回目は事後調査として令和2年2月に実施した。

調査1 国語は好きですか。

国語 学年	国語好き		国語嫌い	
	事前	事後	事前	事後
1年	34	28	5	11
2年	33	35	8	6
3年	25	32	18	11
4年	29	29	22	22
5年	31	33	12	10
6年	15	18	27	24
合計	167	175	92	84

調査2 作文は好きですか。

作文 学年	作文好き		作文嫌い	
	事前	事後	事前	事後
1年	28	24	11	15
2年	27	26	14	15
3年	18	26	25	17
4年	13	12	38	39
5年	14	20	29	23
6年	7	9	35	33
合計	107	117	152	142

意識調査結果から、国語学習及び作文学習ともに、学年が上がるにつれ「好き」が減少し、「嫌い」が増加する傾向にある。特に作文学習に関する苦手意識は依然として大きい。

作文が「好き」と回答した主な理由としては、「自分の考えを伝えられる」「書くのが楽しい」が多かった。一方、「嫌い」と回答した主な理由としては、「書くことが難しい」が多く、中でも「構成を考える」ことの難しさや、「原稿用紙の使い方」が十分でない実態があると考えられる。

今後、①文の作り方や文章の構成の仕方、②句読点やカギ括弧の使い方や改行の仕方、などの指導を更に進めていく必要がある。

研究のまとめ

I 取り組んだ成果

- ・サイドラインを引き、要点を見つける力がついた。
- ・じどう車くらの最後のまとめの図鑑づくりでは、意欲的に取り組む児童が多かった。
- ・学校行事の後は、心に残ったことや、頑張ったことなどを作文にしていたことで、長い文章が書けるようになった。
- ・毎日2人ずつスピーチをしたことで、人前で話すことや質問を考えながら聞くことに慣れてきている。
- ・授業中2人組で話す時間（トクトクタイム）を設定し、友達の考えを聞きながら、自分の考えを深めることができた。
- ・書くことに対して抵抗感が減った児童が増えた。
- ・作文の書き方に対して、書く単元ではまとめて行うことで復習することができた。
- ・ゴールを設定することで、めあてが分かりやすく取り組みやすくなった。
- ・ペア学習やグループ学習を通して、考え方を深めることができ、楽しく学習することができた。
- ・段落や場面ごとに題名をつけることで、内容を整理することができた。
- ・字数制限を設け、内容をまとめることで文ごとに大切な言葉を整理する力を少しずつつけた。
- ・国語好きが増えた。
- ・文章を書く楽しさを実感した児童が増えた。
- ・作文の書き方プリントを使用して、卒業文集を書くようにできた。
- ・作文を書くときに、「始め・中・終わり」といった文章の流れを意識できてきた。

II 残された課題

- ・「は」「を」「へ」の使い方を未だに間違えてしまう児童がおり、個人差が大きい。
- ・文作りでは、詳しく書こうとすると、一文が長くなってしまいう傾向がある。
- ・話の区切り目や段落の理解が難しい。
- ・学校全体としての指導法を提示し、進めていくとよい。（ユニバーサルデザインの意識や掲示物、学び合い、共通項目等）
- ・低学年からの積み重ねが必要であることを実感した。
- ・文を読み、内容を整理する力をもっと高める必要がある。
- ・様々な「ことば」に触れ、語彙能力を高める必要がある。
- ・原稿用紙の書き方をもっと詳しく行いたい。
- ・1～6年で統一した手立てで取り組みたい。
- ・国語への苦手意識を持っている児童がまだ多い。

III 今後に向けて

- ・研究体制として、授業展開のあり方を研究する「授業研究部」と、学力や意識の調査を行う「調査統計部」のほか、朝学習や家庭学習など、原稿用紙の書き方や短文作りに取り組む教材を開発する研究部（教材開発部）を設定し、取り組んでみてはどうか。
- ・研究内容を更に焦点化し、①字数制限、②解答として適切な文章内容、③引用する言葉、の3つの条件を設けた文章作りの研究をしてもおもしろいのではないか。焦点化することで、統計調査も学力調査、意識調査ともに明白になると思われる。